

中央公民館

佐倉地区の概要

佐倉地区は、京成電鉄軌道の北側の旧内郷村地区と南側の旧城下町地区とに大別される。内郷地区は、宮前地区で宅地開発が進み、その他の地区は田畑が広がっている。また、印旛沼を北にのぞみ、草ぶえの丘、市民の森、岩名運動公園などレジャー施設が数多く集まっている。京成電鉄とJR総武本線、鹿島川にはさまれた旧城下町地区は、未だに城下町当時の面影が所々に残っており、国立歴史民俗博物館、佐倉城址、武家屋敷、順天堂記念館、平成12年11月一般公開された旧堀田邸など、歴史と文化の環境に恵まれている。また、城下町の面影を残す台地上に、市役所、裁判所、検察庁そして、市立図書館、市民体育館、市立美術館など公共施設が集中しており商店街も形成している。

公民館は、この台地の南側の低地に佐倉保育園と並んで建っている。付近には、平成11年3月に建設された千葉県印旛合同庁舎がある。JR佐倉駅、京成佐倉駅ともに徒歩15～20分、最寄りバス停から5分の場所に位置する。佐倉地区の人口は平成23年3月末日で、30,301人で昨年に比べ118人の減となっているが、ここ10年位はほぼ、横ばいの状況である。

管 理 ・ 運 営 の 部

1. 公民館運営計画

運営方針

歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。

努力目標

- 利用者に対して、快い対応をするように努める。
- より多くの人に利用してもらうよう施設設備の提供に工夫をすると共に、安全管理に努める。
- 各種の事業内容の充実に努める。

事業内容

1. 施設・備品の提供

地域住民各層の利用に応えるため、サービス業務の向上を図る。

(1) 施設の提供（団体、グループ単位）

- ① 利用時間 ○午前9時から午後9時30分まで。

ただし、月曜日と祝日は、午後5時00分まで。

- ② 休館日 第2・第4月曜日、及び年末・年始（12月28日～1月4日）。

(2) 備品の提供（団体、グループ単位）

館外貸与できるもの

机、椅子、拡声装置

2. 学級講座

学習機会の拡充と学習内容の充実に努めるため、学級講座の質的向上に努める。

幼児家庭教育学級、少年教育講座、成人教育講座、佐倉市民カレッジ等の実施。

3. 講演会事業

継続的に学習することができない人のために、学習機会の提供を図る。

4. 団体育成

公民館利用グループ・サークル活動の育成と支援を行う。子ども会活動への支援、高齢者ボランティアグループの支援を行う。

5. 文化援助事業

行政機関、文化団体の教育文化行事への協力を図る。

文化団体発表会、文化祭、美術展、音楽鑑賞会、映画観賞会への支援を行う。

6. 広報事業

公民館の役割や各種文化行事等の情報提供。

中央公民館だよりの発行、各種館外催物、各種ポスター等の掲示、及びパンフレットの配布、公民館の役割や利用の仕方のパンフレット配布。

7. 展示事業

ロビー、展示ホールの効果的活用を図る。

利用者作品展、各種展示会の開催。

8. 図書

図書館と連携の上、学習資料を収集し、活用する。

カレッジ図書コーナーの設置、家庭教育関係の資料の整備。

2. 公民館利用状況

年度別利用状況

区 分	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
利用件数 (件)	6,730	6,962	7,105	6,965	6,536
利用人数 (人)	118,929	121,361	119,681	107,973	98,335
開館日数 (日)	334	333	333	333	334

事業の部

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	幼児親子あそび 教室	幼児とその親 24組	2/22・29 ・3/7・14・21 5回	幼児の心の成長と豊かな感受性の育成を担う、親と子のための学習講座。
	お父さんと一緒に 食育講座	小学生とその父親 5組 (11名)	1/29	欠食や偏食などライフスタイルの変化による食生活の乱れが懸念される中、親子で正しい「食」の知識を身につけるとともに食の大切さを学ぶ。
青少年教育	ジュニアカヌースクール	小学生 3～5年生 11名	7/16・8/25・26・ 27・9/3・17・ 10/1・11/5・ 8回	印旛沼を利用したカヌープログラムを通して自然に触れ合う機会を提供する。ジュニアカヌースクール。
	子どもの居場所作り	小学生 延べ 33名	7/22・26・27・ 28・8/1 5回	公民館を利用しているサークルが、小学生を対象に指導し、日頃の学習の成果を披露する。華道・工作・刺繍など。
		延べ 29名	7/21～8/31	夏休み期間、学習室2を自主学習の場として提供する。
	通学合宿	小学生 4・5・6年生 19名	佐倉東小 11/27～11/30	子どもたちが生活体験をすることにより、協調性、自主性を育むとともに両親の大切さを感じる機会を提供する。
	親子映画会	小学生と親 延べ 925名	8/5 12/27 3/27	青少年対象の映像機材による地域の子どもたちの健全育成を図る。また、身近な場所で映画を上映することで子ども達が気軽に映像文化に親しむ機会を提供する。
	佐倉っ子塾共通講座1 「夏休み子供水辺探 検ツアー」	小学生 11名 父兄 1名	7/26	環境保全課、根郷公民館と共催。谷津の生きものや、湧き水・地下水の流れ方などの水の流れについての講義と野外観察を通じて佐倉の川や自然環境を学ぶ。
成人教育	佐倉学入門講座 「佐倉・城下町 400年 と土井利勝」	成人 延べ 166名	2/19・3/19 2回	「佐倉の歴史に興味があるけれども、きっかけがない」「これから佐倉の歴史を学んでみよう」という方々を対象に、佐倉城（鹿島城）を築城し、その城下町の整備を指導した佐倉の領主「土井利勝」をキーワードとして学習する。

	佐倉学入門講座 「写真にみる佐倉の 近現代」	成人 延べ 99 名	3/10・24 2 回	佐倉を学ぶ身近な題材として、写真から郷土への理解を深めるとともに佐倉について学習する。
	佐倉学専門講座 2 「印旛沼の文化と自然」	成人 延べ 名	1/28・2/4・25・3/3 2 回	かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である「印旛沼」について学ぶ。
	印旛沼公開講座 「温故知新」 (共催事業)	成人 延べ 360 名	8/27・10/1・29・11/26 4 回	かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である印旛沼について学ぶ。印旛沼環境基金との共催事業。
	地域づくり入門講座 佐倉産「米粉」でクッキング	成人 20 名	12/11	米粉を使った料理のおいしさを知ってもらうことで米粉の普及を図り、地産地消を促進する。
	パソコン広場	パソコン初心者 成人 延べ 218 名	4 月～3 月 毎週火～金曜日	パソコンに実際に触れ、操作することによって、パソコンとはどのようなものであるかを体験する。
	パソコンイベント	パソコン初心者 成人 延べ 55 名	12/3 午前・午後 2 回	初心者を対象に、パソコンに興味を持ってもらうと同時に、カレッジ卒業生をボランティア講師として活用する。
	映像教材貸出	登録団体	随時	保有教材 16 ミリフィルム 462 本 ビデオ教材 2,102 本
	佐倉学体験講座 「佐倉の民話及び佐倉こどもかるた普及事業のボランティア団体派遣事業」	さくらっ古 小学生 1～6 年生 延べ 1,155 名 子都手留会 幼稚園～一般 延べ 241 名	さくらっ古 9 回 子都手留会 6 回	【さくらっ古】佐倉に伝わる民話を題材とした読み聞かせ講座を行う。 【子都手留会】「佐倉こどもかるた」を使ってかるたをすることにより、佐倉について学ぶ。 市民カレッジ卒業生グループを主体とした出前講座。
高齢者教育	佐倉市民カレッジ	第 1 学年		高齢社会のなかで、市民が健康で生きがいをもち、地域と連携をもちながら、住みよいまちづくりを考え実践をとおした生涯学習の場とする。 「であい課程」では、主に一般教養科目を学ぶ。その領域は、健康・家庭・生きがい・経済・佐倉の歴史・環境・市政・
	《であい課程》 第 1 学年・第 2 学年 2 年間の学習コース	1 組 50 名	5 月～2 月	
		2 組 50 名	34 回	
	《専攻課程》 第 3 学年・第 4 学年	第 2 学年		
1 組 44 名		5 月～2 月		
		2 組 48 名		

	2年間の学習コース (以下の4コース) あったか福祉コース ふるさと歴史コース さわやか情報コース ゆっくり元気コース	第3学年		福祉・国際理解・仲間づくり等の学習を行う。特に1年生は、学ぶ意義から入り、仲間づくりに重点を置いた。2年生は、まちづくりを重点に考え、実践した。 「専攻課程」では、「であい課程」を終了後、更に学びたい人のため専門別に学習をした。卒業後の実践活動に役立たせるために、体験学習、話し合い、発表等の学習方法を取り入れた。 公開講座、ミニセミナー等を拡充し、一般への学習機会の提供を図る。
		福祉コース 23名 歴史コース 25名 情報コース 20名 元気コース 23名	5月～2月 21回	
		第4学年		
		福祉コース 23名 歴史コース 25名 情報コース 17名 元気コース 26名	5月～2月 22回	
団 体 育 成	佐倉地区子ども会 育成会連絡協議会	加盟子ども会 7団体	随時	子ども会の育成者を養成し、子ども会同士の交流を図る。
	調理室利用者懇談会	利用団体代表者 17団体	6/27・12/12 2回	調理室の効果的利用方法を考えるとともに、懇談を通して利用サークル間の交流を図る。
	16ミリ映写機 操作講習	社会教育団体 6名	6/25	視聴覚機器の操作を習得する機会を提供し、映像機材の活用を図る。
	16ミリ映写機 点検事業	16ミリ映写機保有 施設10台	3/2～3/22	各施設所有の16ミリ映写機を老朽化に伴う上映使用時のトラブル防止のため、一括して点検を行う。
広 報 活 動	中央公民館だより	佐倉地区	1回 500部	公民館の事業紹介や募集、地域の情報を提供する。
	「なかま」	成人	毎月1回 各1,500部	市内高齢者から広く原稿を募集し、市民の手による市民の「心の交流の場」づくりをめざす。
	ホームページ	市民	随時	佐倉市立中央公民館の主催事業等を掲載して、情報の提供をする。

1. 家庭教育事業

幼児親子あそび教室

- 開設趣旨 幼児にとって遊びは、生活上なくてはならない重要な学習であり、遊びを工夫し豊かにすることは、幼児の心と身体の成長に大切なことである。本講座は、幼児の心の成長と豊かな感受性の育成を担う、親と子のための学習講座として開設する。
- 対象・人数 幼児とその親 24組
- 開設期間 平成24年2月22日～平成24年3月21日
午前10時～11時30分 全5回
- 学習目標
 1. 身体で手本を示す親になりましょう。
 2. 学んだことを生活の中で活かす努力をしましょう。
 3. 子供の豊かな創造性を大切に、友達づくりや他の親子との交流に努力しましょう。

○プログラム

回	月日(曜日)	学習テーマ	学習内容	講師
1	2月22日(水)	お友達になろう	自己紹介・リズム遊び エプロンシアター	川口はぎ江
2	2月29日(水)	身近な物を使って遊ぼう	ハンカチ・タオル・シーツを 使って遊ぼう	川口はぎ江
3	3月7日(水)	造形遊び	小麦粘土をつくって遊ぼう	川口はぎ江
4	3月14日(水)	楽しい工作	牛乳パックでカスタネット を作ろう	川口はぎ江
5	3月21日(水)	体を動かそう	楽しい運動会	川口はぎ江

○講座を終えて

毎年6月に行う親子あそび教室だが、今年度は駐車場工事の関係で2・3月の実施となった。わずか8カ月の違いだが、子どもたちの成長に驚いた。エプロンシアターをだれもが真剣に見つめ、初めて聴く歌でも一緒に口ずさむ。積極的に先生に話しかける子どもがいて、前に出た時「自分の場所が無い」と言って泣いてしまう子もいる。大人の話が理解できるようになった分、なにか声掛けすると「我先に」となり、子ども同士がぶつかってしまうこともあった。そのため2回目の講座からは順番に行うということも学習課題の一つとなった。タオル遊びでは、バスタオルを使ったそり遊びやフェイスタオルを使ったミニミニハードルなど家にあるもので簡単に体を動かせることを知った。小麦粘土づくりでは、粘土の感触を喜ぶ子や、手が汚れることに戸惑う子など、子どもによって個性的な反応があった。保護者からは、家ではなかなかできない遊びなので、親子共々とても楽しめたとの声があった。楽しい工作では牛乳パックからおもちやが作れることに驚き、運動会では、子どもが動きまわる様子から、改めて自分の子どもの成長を知った。このようにお母さんも5回の講座で様々なことを学んだようだ。

受講者はこの講座で、身近にあるもので遊びを工夫することや、子どもとじっくり向き合って子育てを楽しむことの大切さを学ぶきっかけを得たのではないだろうか。

お父さんと一緒に食育講座

- 開設趣旨 欠食や偏食などライフスタイルの変化による食生活の乱れが子どもたちの健康に及ぼす害として懸念される中で、親子で正しい「食」の知識を身につけ、「食」の楽しさ、大切さを学ぶ。
また、父親の育児・家事参加を促すことにより、男女平等参画の推進と、家庭教育の充実を図る。
- 対象・人数 小学生とその父親 5組（11名）
- 開設期間 平成24年1月29日（日）
午前10時～14時00分
- 学習目標
 1. 食材について知る。
 2. 食の機能と食文化について学ぶ。
 3. 父子の交流を深める。
- 講師 親父の食事学同好会 奥平英明
- 会場 中央公民館 調理室
- 学習内容 調理実習 メニュー 佐倉風カレーライス、フルーツ寒天
- 講座を終えて

平成22年度より男女共同参画の観点を取り入れ、対象を小学生とその父親に限定して募集した食育講座だが、インフルエンザ流行中のため当日の欠席者が多く、5組11名のみの参加となった。

この講座は調理実習をするだけでなく、実習を通して、栄養・衛生的な調理方法・食事の際のルール等を学び、「食」についての理解を深めることを目的としている。今年度は、佐倉風カレーライスとして、赤みそをメニューに使用するなど、佐倉の名産品について考えるきっかけをつくった。

参加した父親からは「普段は忙しく、このような時間をとれないが、親子で一緒に楽しく料理できました」といった感想が寄せられ、子どもたちからも「カレーがおいしかった」「楽しくて、もう一回やりたかった」などの感想が寄せられた。

しかしその一方で、「父子で参加できる行事をもっと増やしてほしい」という感想をもつ保護者も見受けられた。今回は、年に1回のみ単発事業であり、実施内容は料理に限られている。今後は、もし予算などの事情が許すようであれば、父子で運動や工作をしたり、他の内容の教室を企画することができれば、おそらく喜ばれるように感じた。

講座の最後は講師から、食事した後には、自分の食器をきちんと衛生的に後始末することが示され、父子の料理教室はなごやかな雰囲気の中終了した。

2. 少年教育事業

ジュニアカヌースクール

- 開設趣旨 カヌーを体験することにより、地元の印旛沼に親しむとともに、年齢の異なる仲間との団体活動をとおして社会性・自発性の涵養を図る。
- 対象 小学生3年生～5年生 11人
- 開催期間 平成23年7月16日（土）から11月5日（土） 全8回
午前10時から午後1時まで
- 指導者 佐倉市カヌー協会
- 学習プログラム

回	日 時	テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者
1	7月16日(土)	開講式・実習	講義と会場見学・実技	佐倉市カヌー協会
2	8月25日(木)	実習	基本技術の習得	〃
3	8月26日(金)	〃	〃	〃
4	8月27日(土)	〃	〃	〃
5	9月 3日(土)	〃	〃	〃
6	9月17日(土)	〃	〃	〃
7	10月 1日(土)	〃	〃	〃
8	11月 5日(土)	〃	〃	〃

○講座を終えて

基本的な技能の習得を中心としたスクールを実施したが、過去のスクール生が指導を補助し参加者にマン・ツー・マンのように教室をサポートしてくれた成果として、早くカヌーを親しめるようになり、ボールを使ったり、レースをしたり、より高度な技能を身につけることができた。

練習場所は佐倉市カヌー協会が普段の練習場所としている印旛沼中央水路であり、子どもたちはカヌーの体験を通してふるさと佐倉の自然に親しんでいる。ジュニアカヌースクール終了後も引き続き佐倉市カヌー協会のスクールで練習している児童もいる。

子どもの居場所作り

○開設趣旨 夏休み期間の子どもたちの居場所を公民館の中に整備し、公民館利用グループの学習に子どもを参加させることで、公民館利用グループの学習の成果を子どもたちに提供し、子どもたちと地域グループの交流を目指す「子どもの居場所作り」を開設した。

○対 象 小学生（主に佐倉地区4小学校）

○開催期間 小学生の夏休み期間

○学習プログラム

教室名	日程	人数	参加グループ名
いけばなきょうしつ	7/22・26・28	19	佐倉市華道連盟
たのしいししゅう	7/27	6	さくら草
紙ヒコーキみんなでとぼそう	8/1	8	とぼそう会

○事業を終えて

平成17年度から始めた事業である。公民館利用グループの協力を得て、3団体の公民館利用グループにより実施した。今年度は、全体で延べ33名の小学生の参加申込があった。一人で複数の教室に参加した児童もいた。

事業の意義として、今日の少子化の流れの中で、地域の様々な人々と関わりを持つことにより、子どもたちの社会性とコミュニケーション能力を育み得る「子どもの居場所作り」は、たいへん貴重な機会と捉えることができる。また、子どもたちの受け入れ側である公民館利用グループにとっても、他世代との交流は、気持ちを若返らせ、生き生きと活動することのできる新鮮な体験となった。実際に、公民館利用グループ側の参加者からは、「子どもさんたちに喜んでいただけると、たいへん嬉しく、また次の活動に向けてのやりがいになります。」という言葉をいただいている。

世代間交流の場として、地域に開かれた公民館の中の子供部屋として、長く続けていきたい事業のひとつである。

通学合宿

○開設趣旨 子どもたちが生活体験をすることにより、協調性、自主性を育むとともに両親の大切さを感じる機会を提供する。また、両親には、子ども離れることで日頃の親子関係を考える機会を提供する。そして、スタッフに地域の人材を入れることで、地域で子どもを育てる意識を啓発する。

○対象・人数 佐倉東小児童（4～6年生）19名

○期間・回数 平成23年11月27日（日）～平成23年11月30日（水） 3泊4日

○学習目的

1. お互いの立場や役割を理解し、協力し合う心を育む。
2. 日常生活に必要な生活技能を習得する。
3. 子どもの自律と自立による生きる力“社会性・責任感・協調性・他人を思いやるやさしさ・規律意識。忍耐力を育む。

○ボランティア 地域人材 佐倉市民カレッジ生 佐倉高校生

○プログラム

月日（曜日）	学 習 内 容	会 場	参加者数
11月27日（日）～ 11月30日（水）	開校式 ・ 献立決め・買物・朝食・夕食（調理、後片付け）・洗濯・入浴・清掃 閉校式	佐倉高等学校 セミナーハウス	佐倉東小児童19名、市民カレッジボランティア13名、市民カレッジOBボランティア7名、大学生ボランティア6名、佐倉高校生ボランティア18名、市職員10名

○講座を終えて

佐倉東小学校の通学合宿は、参加児童21名募集のところ20名の申込があり、うち1名欠席のため19名で行われました。また、通学合宿中は市民カレッジ生をはじめ、のべ80名のボランティアの方々が、料理や買い物などの生活体験や登下校の付き添いなどをサポートしました。

合宿期間中、料理は献立決めから班ごとに試行錯誤して、約30人分の朝食・夕食の買い物から調理、盛付け、片付けまでを行います。料理や掃除、宿題をしながら普段どおり学校に通い、4日間たいへん厳しいスケジュールでしたが、子ども達のアンケートからは「親の大切さを感じた」「みんなと協力できてよかった」との声が聞かれました。

親元を離れて共同生活を行い、上級生や下級生、ボランティアの方たちと触れ合いながら、自分達のことを自分達でやってみたことは、短い期間ではありますが子ども達にとって貴重な経験になっていると思います。

3. 成人教育事業

佐倉学入門講座「佐倉・城下町400年と土井利勝」

○開設趣旨 「佐倉の歴史に興味があるけれども、きっかけがない」「これから佐倉の歴史を学んでみよう」という方々を対象に、佐倉城（鹿島城）を築城し、その城下町の整備を指導した佐倉の領主「土井利勝」をキーワードとして学習します。

現在の佐倉市の基礎となった江戸時代の佐倉を学習することによって、佐倉に愛着を持ち、ふるさと創生につなげることを目的とします。

- 対象・人数 成人（各回ごとの参加）講座：各100名
- 期間・回数 入門講座…講義：平成24年2月19日（日）・3月4日（日） 全2回
- 学習目的
 1. なぜ歴史のまち佐倉といわれているのか、その一つである城下町佐倉を知ることから学び始める。
 2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。
- 指導者 講義：郷土史家 山倉洋一（NPO法人佐倉一里塚）

○プログラム

講座

回	月日(曜日)	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者	参加者数
1	2月19日 (日)	土井利勝とその時代を 探る	講義 佐倉を創った男＝土 井利勝	郷土史家 山倉洋一	78名
2	3月4日 (日)	土井利勝とその時代を 探る	講義 佐倉を創った男＝土 井利勝（その2）	郷土史家 山倉洋一	88名

○講座を終えて

平成21年度から「土井利勝」についての講座を開催しています。参加者のアンケート等では、講師の郷土史家の山倉氏は、研究熱心であり、講義についてとてもよかったという意見が多くみられました。

次年度以降は、大学等の日本史研究者を講師に加え、散策の再開も検討いたします。「佐倉・城下町400年」については平成29年度まで続く記念事業なので、今後取り上げる内容について検討していく必要があると思います。

佐倉学入門講座「写真でみる佐倉の近現代」

- 開設趣旨 「これから佐倉を学んでみたい」という方々を対象に、佐倉を学ぶ身近な題材として、写真から郷土へ理解を深めると共に佐倉について学習し、郷土佐倉の創生につなげることを目的とします。
- 対象・人数 成人 100名
- 期間・回数 平成24年3月10日（土）・3月24日（土） 2回
- 指導者 満開佐倉文庫館主 内田 儀久
- プログラム

回	月日(曜日)	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者	参加者数
1	3月10日 (土)	佐倉にみる佐倉の近 現代①	講義 写真から佐倉を学ぶ ～幕末から終戦まで～	満開佐倉文 庫館主 内田儀久	54名
2	3月24日 (土)	佐倉にみる佐倉の近 現代②	講義 写真から佐倉を学ぶ ～佐倉市のあゆみ～	満開佐倉文 庫館主 内田儀久	45名

○講座を終えて

佐倉市市制50周年記念として出版された写真集「写真にみる佐倉」を題材として、佐倉市の幕末から現代までのあゆみについて学習しました。写真を見るだけでは知ることのできない時代背景や当時の

生活実態等を写真1枚1枚解説していただきました。

受講者の感想として、「興味深かった」「継続してほしい」等のお言葉の一方、「もっと深く話をしてもらえたらもっと楽しい講座になる」等のご指摘も頂戴しました。このようなアンケートからも、身近な写真や映画や小説から「佐倉」を知ることができる事業は、これから佐倉を学んでみたいというかたたちには入りやすい内容であり、今後もテーマを変えて継続していきたい事業であると感じました。

佐倉学専門講座2 ～印旛沼の文化と自然～

○開設趣旨 かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である「印旛沼」について学ぶものです。「佐倉の文化と歴史そして自然について学んでみたい」という方々を対象に、印旛沼の文化・歴史・自然を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

○対象・人数 一般成人 90名

○期間・回数 平成24年1月28日・2月4日・2月25日・3月3日 全4回（土曜日）

○学習目的 1. 佐倉市のシンボルでもある印旛沼の自然と県内の湧水、印旛沼の文化・歴史について学習します。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養います。

○学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	学習内容	講師
1	1月28日(土) 10:00～正午	印旛沼と人とのかかわり	NPO法人水環境研究所
2	2月4日(土) 10:00～正午	印旛沼の植物と千葉県の水	NPO法人水環境研究所
3	2月25日(土) 10:00～正午	印旛沼と文学	作家 高比良直美
4	3月3日(土) 10:00～正午	印旛沼の龍伝説とその周辺	郷土史家 内田儀久

○事業を終えて

本事業は、「佐倉学専門講座」の中の1講座として開講しました。

初めの2講座は、NPO法人水環境研究所に自然科学面からの講義であり、あと2講座を今年度から文化面からの講座として行いました。

1月28日の「印旛沼と人とのかかわり」は、白鳥先生の「短い一生 印旛沼」の講義と瀧先生の「現在の印旛沼」の講義でした。

2月4日の「印旛沼の植物と千葉県の水」は岩井先生の「印旛沼流域の水と特徴」の講義と今井先生の「印旛沼の水草」でした。

2月25日の「印旛沼と文学」は野村胡堂の小説である「人柱印旛沼」(改題して「町人10万石」)を、作家である高比良先生から、江戸時代に行われた印旛沼開発事業に命をかけ、ついには印旛沼の人柱になっていくという物語の2時間の講義でした。

3月3日の「印旛沼の龍伝説とその周辺」は本年の辰年に因んでの企画であり、郷土史家である内田先生から「3つ裂きにされた龍」「雨乞いのお坊さんの話」「今昔物語」「龍関連の文物」など多岐にわたる講

義でした。

地域づくり入門講座『佐倉産「米粉」でクッキング』

○開設趣旨 「食」の変化や多様化のなかで、減少する米の消費を拡大し食料自給率をあげるために、様々な取り組みがなされていますが、佐倉市では、地元産の「コシヒカリ」を使った米粉の普及活動が行われています。

本地域づくり講座では、米粉を使った料理のおいしさを知ってもらうことで、米粉の普及を図り、地産地消を促進することを目的とします。

○対象・人数 市内在住・在勤の方（成人）20名

○日時 平成23年12月11日（日） 10時00分～14時00分

○指導者 若梅 裕子（アシスタント：永井 久枝）

○プログラム

デモンストレーション	・ポテトガレット ・米粉のブラウニー ・米粉を使ったサクサクポーロ	参加人数 16名
実習メニュー	・おやき（おやきの皮・おやきの具） ・里芋のだんご汁 ・マーラーカオ（米粉の蒸しパン） ・ごぼうのカリッと焼き	

○講座を終えて

中央公民館では成人向けの講座としては初めて、佐倉産コシヒカリを使った米粉の調理実習を行いました。当日は、デモンストレーションから始まり、講師から調理の流れやコツ等の説明があり、その後参加者が4グループに分かれて調理実習を行いました。デモンストレーションでの調理も含めて品数は全部で7種類と豊富でしたが、料理経験のある参加者が多いということもあり、予定どおりスムーズに進行することができました。また、参加者からは是非また米粉のクッキングを開催してほしいとの声を多数いただくことができました。佐倉産の米粉を使った調理実習を行うことで、仲間づくり・地域づくりに繋げることができ、引き続き次年度以降も続けていきたい。

パソコン広場・パソコンイベント

○開設主旨 パソコン初心者程度のかたが自由にパソコンに触れることができるように、パソコン広場として場所とパソコン機器を提供する。さらに、市民カレッジ卒業生からなるパソコンスタッフがパソコン広場の企画・運営にあたる。

○対象 一般成人

○開設日時 自由利用……毎週月～金曜日（休館・保守点検日を除く）の午前10時～午後4時に自由に利用できる

スタッフ指導……火曜日と水曜日（各2回／月）

パソコンスタッフが指導にあたる

パソコンイベント……パソコンスタッフが企画し、秋に開催

○パソコン広場利用人数

内 容	日 時	利用人数 (延べ)	パソコンスタッフ
自由利用	毎週火曜日から金曜日 午前10時～午後4時	99人	
スタッフ指導	隔週の火曜日と金曜日	(自由利用者と重複) 119人	市民カレッジ卒業生 15期・16期 各10人
パソコンイベント	平成23年12月3日(土) 午前9時40分～午後2時50分	55人	市民カレッジ卒業生 15期・16期 25人
合 計		435人	

○事業を終えて

- ・パソコン広場スタッフについて、20年度までは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生の3期体制で実施していたが、利用者の減少、パソコンが古い機種である、利用者の学習要求の高度化などの理由から、21年度よりパソコンスタッフは2期生として実施した。
- ・昨年度と比較すると利用者は減少したが、引き続き利用者からの継続希望は多く、リピーターが多いことも傾向としてあげられる。
- ・パソコンイベントについては、希望者の多い「Wordで年賀状を作ろう!」を5年連続で実施した。参加者には大変好評であり、今年度はWindows Vistaと個人持ち込みで実施した。初心者を対象としているため個別指導で対応し、内容を最小限にしたが、時間いっぱいであった。個人持ち込みは、Windows 7が多いかと予想したが、以外とXPの機種も多く急ぎよ昨年の資料を用意し、個別指導でもあったので、なんとか対応できた。準備期間を長く設け、担当者ごとに役割を明確にしたため、当日は混乱もなく実施できた。

佐倉学体験講座 ～佐倉の民話及び佐倉こどもかるた普及事業のボランティア団体派遣事業～

○開設趣旨 佐倉学関連事業の一つとして、市内小学校、教育センター、中央公民館が連携して、子どもたちに「佐倉学」を総合的に学べる場を提供するとともに、佐倉学の普及を図るため、佐倉市民カレッジ卒業生で結成された、民話を語るボランティア団体「さくらっ古」と「佐倉こどもかるた子都手留会」を市内小学校の児童を対象に派遣し、佐倉に伝わる民話の語りべや佐倉こどもかるたを通して、郷土愛を育むことを目的としています。

○対象・人数 市内小学生 1年生～6年生（「佐倉こどもかるた子都手留会」については一般も対象）

○期間・回数 平成23年4月1日～平成24年3月31日

・さくらっ古：全9回 延べ1,155名

・子都手留会：全6回 延べ241名

○学習プログラム

【さくらっ古】

回数	月日(曜日)	民話の題名	学校名	対象・人数
1	6月24日(金) 9:20～10:40	① 小島のきつね ② 八本目の足 ③ てんぐとかっぱとかみなりどん ほか	王子台小学校	1・2年生：150名 3～5年生：200名
2	7月6日(水) 9:15～12:10	① たんたん山 ② 八幡様の白馬 ③ はっちむぎつね ほか	根郷小学校	3年生：84名

3	9月9日(金) 9:25 ~12:10	① 親はうま酒、子は清水 ② てんぐに誘われ京見物 ③ おしどりの悲しみ ほか	千代田小学校	1・2年生：45名 2年生：35名 3年生：53名 4年生以上：40名
4	10月28日(金) 10:30 ~11:15	① てんぐとかっぱとかみなり どん ② 親はうま酒、子は清水」 ③ 一休さん ほか	下志津小学校	2年生：50名
5	11月11日(金) 10:25 ~11:05	① さぶなしわらびと宝寿院 ② 親はうま酒子は清水 ③ てんぐにさそわれ京見物 ほか	和田小学校	3年生：17名
6	11月25日(金) 9:15 ~11:00	① げんごろうのてんのぼり ② 姥が池物語 ③ 宝の原 ほか	白銀小学校	1年生：32名 2年生：38名
7	12月9日(金) 9:15 ~12:15	① 印旛沼の鬼童丸 ② ぴよんとこしょ ③ 雪女 ほか	小竹小学校	1年生：51名 2年生：28名 3年生：46名
8	12月16日(金) 10:30 ~11:15	① てんぐにさそわれ京見物 ② 反物地藏 ③ はっちむぎつね ほか	臼井小学校	2年生：50名
9	1月13日(金) 9:30 ~12:15	① 宝の原 ② ききみみずきん ③ 十二支の由来 ほか	染井野小学校	1年生：48名 2年生：64名 3年生：63名 4年生：61名

【子都手留会】

回数	月日(曜日)	団体名	対象・人数
1	8月6日(土)	志津公民館	「志津市民大学・しづ学入門」受講生：37名
2	11月26日(土)	佐倉地区子供会育成会 連絡協議会	小学1年生～一般：35名
3	12月11日(日)	志津公民館	佐倉っ子塾・志津こども教室・手作り工房：13名
4	1月16日(月)	寺崎小学校	1年生：27名 4年生：30名
5	1月17日(火)	染井野小学校	3年生：61名

6	2月7日（火）	佐倉幼稚園	年長組：38名
---	---------	-------	---------

○事業を終えて

この事業は、佐倉市民カレッジ「まちづくり」の授業から誕生している2団体の派遣事業です。

『さくらっ古』は、平成17年6月から活動を行っており、毎年多くの小学校からの派遣依頼をいただいております。また、さくらっ古独自の活動も活発で、児童センターや学童等定期的に公演を行っているとのことで、今後もさらなる活動が期待されます。

『子都手留会』は、かるたの作成等準備の期間を経て、平成20年11月より活動を開始していますが、「佐倉こどもかるた」の存在自体がまだ身近となっていないこともあり、今年度の小学校への派遣活動は3団体でした。志津公民館祭や和田ふるさとまつり等、各地域でのイベントに今後も引き続き参加すること、校長会等で何度かチラシを配布して、各小学校に「かるた」の存在と活動内容をアピールしていく必要があると感じました。

4. 高齢者教育事業 四年制高齢者大学校「佐倉市民カレッジ」

1. 開設までの経緯

中央公民館では、年々増加する高齢者が、社会の変化とともに歩み、自己の能力を伸ばし社会活動へ参加し充実した生き方ができるよう、昭和53年5月に「佐倉市高齢者短期大学校」(以下短大)を開設した。

短大が数年経過すると学生の学習意欲が高まり、卒業した学生からさらに学びたいという希望が生まれ、短大6期生より自主的に2年間の学習を行う「生きがい学園」が誕生した。

また、短大生たちの中で4年間続けて学ぶことの意義が認識され、短大の学習内容のひとつである「市長への提言」にて「高齢者のための四年制の大学校の設置」という提言がなされた。そして、公民館運営審議会委員、福祉関係有識者、短大卒業生を含めた「高齢者の望ましい姿を考える会」が発足し、四年制大学校の設置の概要と方向性として、地域活動の実践、郷土佐倉を愛する心の育成、40歳以上への学習機会の提供などが示された。

このような経緯を踏まえて、公民館棟に接続して四年制大学校の専用校舎を建設し、「佐倉市民カレッジ」という名称のもと平成4年5月に開設した。初年度は40歳以上60歳未満の20名を含む第1学年100名、短大の卒業生が編入した第3学年96名の2つの学年によりスタートした。そして、平成5年度より新1年生と短大の編入生である新3年生を含めた4学年が揃い、本格的な四年制大学校としての歩みを始めた。

2. 開設の趣旨

佐倉市民カレッジは、高齢化社会の中で、市民が健康で生きがいをもち、地域との連携をもちながら住みよいまちづくりを考え、実践をとおして生涯学習のできる場となるよう開設されている。

また、佐倉市民カレッジ（以下カレッジ）では高齢者のみならず、高齢準備期である40歳代からの人にも学習の機会を提供し、高齢者と互いに学び、支え合うことを大切なねらいとしている。

3. 入学対象・定員

(1) 入学対象者

- ①佐倉市に在住する市民で、健康で継続して学習できる人
- ②積極的に自主学習ができる人
- ③卒業後は地域活動に積極的に参加できる人

(2) 定員：100名（年齢別募集）

※各学年の年齢構成は以下のとおり

60歳以上 80名

40歳から59歳まで 20名

なお、平成23年度の応募・入学状況は以下のとおりである。

募集学年	募 集 定 員	応 募 数	入 学 者 数
第1学年	60歳以上 80名	157名	91名
	40歳から59歳まで 20名	10名	9名
	計 100名	計 167名	計 100名

※平成23年度の学生数

学 年	クラス コース	入学・進級者		修了・卒業者	
		人 数	小 計	人 数	小 計
第1学年	1 組	50	100	47	96
	2 組	50		49	
第2学年	1 組	44	92	41	88
	2 組	48		47	
第3学年	福 祉	23	91	23	91
	歴 史	25		25	
	情 報	20		20	
	元 気	23		23	
第4学年	福 祉	23	91	23	89
	歴 史	25		25	
	情 報	17		17	
	元 気	26		24	
計		374	374	364	364

4. 佐倉市民カレッジ運営委員会

カレッジには、佐倉市民カレッジ運営委員会を設置している。委員会は佐倉市公民館運営審議会委員、佐倉市民カレッジ卒業生、識見を有する人等によって構成している。

また、運営委員会はカレッジの運営や学習内容の方針、学生の進級などについて審議する。

・佐倉市民カレッジ運営委員会委員

	役 職	人数	氏 名
1	佐倉市教育委員会教育長	1	葛西 広子
2	佐倉市公民館運営審議会委員	1	慶田 康郎
3	佐倉市民カレッジ卒業生代表	3	白石 由美子 海保 豪 田中 郁三
4	識見を有する人	4	越沢 七子 高比良 直美 遠山 正博 高橋 義和 内田 正恵

※平成23年4月1日現在

5. 佐倉市民カレッジの学習内容

(1) 「であい課程」の学習

カレッジの学習期間は4年間であるが、その前半の2年間は「であい課程」という。主に一般教養と

して、佐倉の歴史、健康、家庭、生きがい、法律、環境、市政、福祉、経済、仲間づくり等の広い分野を学ぶ。

また、「であい課程」では、今までの生活になかった自分とであい、仲間とであい、地域にであう中で、新たな生きがいを見つけることが学習のねらいとなっている。

「であい課程」2年間の学習日数は70日程度で、約140単位に及ぶ。その学習形態は講義形式のほか、話し合い、身近な公共施設などについて学ぶ市内めぐり、いくつかのグループに分かれ、テーマを設定してその内容について討議し、代表者が発表するグループ発表、また個人発表、健康運動などの実習などと様々である。このほか、学生が自ら考え、自己責任において行う地域活動の自己申告取得単位制度を設けている。

「であい課程」1年では、「私の生きがい」をどのようなものに求めているか、何が生きがいになっているか等自分の生きがいについて考え、お互いに発表し合って相互理解を深め、文集「私の生きがい」にまとめる課題がある。2年の、「市政を学ぶ」の学習テーマでは、実際に市政に携わっている市役所の職員等を講師として招き、市民公益活動の推進、基本計画と財政、環境と環境保全、福祉と健康、教育施策「佐倉学」等について学習する。それをもとに、個々に自分の考えるまちづくり構想をもち、各グループに分かれて実践活動を行い、その成果を「まちづくり実践報告会」で発表した。一連の学習の過程で、個々に市政についての理解を深めるのが大きなねらいである。

(2) 「専攻課程」の学習

3年生からの「専攻課程」では、講義と実践をとおして、卒業後も地域で生き生きと活動ができるようになることを目標として設置している。

また、他コース、他学年の講義を聴く聴講制度、さらに地域活動をすることで単位を取得する自己申告取得単位制度を設け、学生が自主的に学習できる体制を整えている。

「専攻課程」には4つのコースを設けている。学習日数は2年間で40日程度、約80単位に及ぶ。コースの名称は「あったか福祉コース」「ふるさと歴史コース」「さわやか情報コース」「ゆっくり元気コース」である。

① あったか福祉コース

「あったか福祉コース」では、社会福祉一般の理論の学習や実習を通して、福祉活動を考え実践できることを主眼としている。3年生では一步専門的な理論・技術を習得し、現場への実践を交えながら制度への理解を深め、介護を生活に身近な面からとらえ総合的視点で学習する。

4年生では3年時の学習に加え「他を認める」「話を聞く」「話をする」という、人と人の交流の基本を学び経験することは、人が生活し地域社会を構成していく中で必要な「コミュニティ」形成の原点を考え学んでいくことにつながり、カレッジ学習の基本である「地域づくり」を根本から学んでいくことにつながると考え、「傾聴」をテーマとした学習にも取り組んでいる。

② ふるさと歴史コース

「ふるさと歴史コース」では、郷土佐倉の歴史、偉人・先覚者や、歴史的町並みについて学び、郷土佐倉を愛する心を育んでいく。

その内容は講義形式の授業を受けるだけでなく、自主的にテーマを設定して研究レポートを作成し、発表する主体的な学習を行っており、さらに、今後の地域活動につながるよう、他コースに佐倉の史跡を案内して教えるという「学び合い学習」を行っている。

現在、卒業生による「歴史ボランティア」グループが結成されており、歴史コースでの史跡散策などの指導や学習補助をボランティアで行っている。

③ 「さわやか情報コース」

「さわやか情報コース」では、デジタルデバイスと言われる情報格差を埋めると同時に、デジタル技術を使用した情報発信を学ぶことで地域の情報の共有化を進めることを目的として、様々な学習を行っている。

佐倉市の情報施策や、情報化社会一般の現状についての講義を聴くほか、情報を伝達する機器を利用して、自主的に地域活動ができるようになるために、3年生では基礎からのパソコン実習、「市民カレッジ情報紙」の作成。4年生ではパソコンの学習成果を活かしたイベントの企画・実施や、デジカメ撮影実習を行っている。また、地域活動における名簿作り。会計資料作成に役立つように、表計算ソフトの講義も行っている。また学習日以外の、パソコン自主学习も盛んである。

そのほか、佐倉市の情報ネットワークの拠点である広域高速ネット296を見学し、高度情報化しつつある地域の現状についての理解を深める学習も行う。

④「ゆっくり元気コース」

「ゆっくり元気コース」では、自分の健康管理を自分で行うために必要な知識の習得を講義・実習とおして行う。

3年生では「歩くこと」を健康づくりの基本と考え、ウォークラリーのコースを作成し、作成されたコースが市民カレッジや地域の行事に活用されることにより市民カレッジ生の地域参画が期待される。そのほか、生活習慣病（成人病）に対する理解と予防、地域ぐるみの健康づくりなどについて学ぶ。さらに、リズム体操や太極拳、ヨガなどの実習をおして、自分に合った健康づくりを発見する。

4年生では、今までの主体的な学習の過程や成果を実践活動を通して、健康の維持と地域活動への導入を図る。具体的には、NPO、協会での実践活動を通して地域での活動を学ぶ。また、各種スポーツイベントに参加し、多様な健康づくり、レクリエーション等への理解を深めるとともに事業の企画運営を考察する。そのほか、健康づくりに関する今後の自分たちの活動について話し合う学習も行っている。

「専攻課程」の学習のまとめとして、それぞれのコースで学習したことを他に伝え・教えることで「学び」を一層深めていく時間として「学び合い学習」を行った。

また「学んだことを活かす」というテーマでそれぞれのコース内で個人発表や話し合いを行い、そして、各コースの代表者による意見発表が行われた。

カレッジでの学習成果や、現在自分が行っている地域活動を紹介する中で、今後の自分の高齢者としての生き方について、長年蓄積した豊かな知識と経験から意見を発表する。それをいかに実践していくかが、カレッジを卒業してからの課題となる。

6. 佐倉市民カレッジの学習の特色

カレッジでは、学習の質を高め、より専門的な学習を行っていくために、他施設と連携を取りながら学習を展開する。特別養護老人ホーム、広域高速ネット296、東京情報大学などと連携して学習を進める。また、これらを含めた平成23年度の主な校外学習は、以下のとおりである。

① 1年 市内めぐり

6月15日、6月22日にクラス別にそれぞれ実施し、酒々井リサイクル文化センター、しすいハーブガーデン、直弥公園など市内の様々な施設を見学してまわり、佐倉市について理解を深めた。

② 専攻課程各コースの校外学習

3学年	6月10日	歴史	佐倉の史跡散策
	6月17日	元気	ウォークラリーとニュースポーツ
	7月1日	情報	東京情報大学見学と講義
	7月8日	歴史	志津の史跡散策
	9月2日	元気	順天堂大学1日体験授業

	9月16日	福祉	佐倉ホワイエ見学体験
	9月30日	歴史	大佐倉の史跡散策と自然観察
	10月5日	福祉	国際福祉機器展見学
	10月14日	歴史	臼井の史跡散策
	10月21日	歴史	成田山の歴史を学ぶ
	10月21日	情報	広域高速ネット296スタジオ見学
	12月2日	元気	ウォークラリーコースを作りみんなで歩く
4学年	6月12日	福祉	ユーカリ優都苑見学
	6月9日	歴史	弥富の史跡散策
	6月30日	歴史	佐倉城と土井利勝
	7月16日	歴史	佐原のまちづくりから学ぶ
	9月2日	元気	順天堂大学1日体験授業
	9月22日	情報	最先端の科学技術に触れてみよう（日本科学未来館）
	9月29日	4コース合同	草笛の丘で自然観察と陶芸
	11月24日	歴史	これからの博物館に必要なこと・歴博を楽しむ
	12月1日	福祉	佐倉ホワイエでの体験学習

7. 平成23年度の主な行事

(1) 始業式・入学式

5月21日、始業式に引き続き第20回入学式が行われ、100人の新入生が晴れの日を迎えた。

佐倉市民カレッジ総長の蕨和雄市長から「市民カレッジの建学の精神である『為すことによって学び、学ぶことによってお互いを高めあい、他（た）に尽くす』を心掛けていただき、四年間の学習の中で、知識と人格共に備わったカレッジ生となっただきますとともに、地域活動の中心的人材となっただくよう切に願っております。」との祝辞をいただいた。続いて、在校生を代表して歓迎の言葉があり、これを受けて新入生100名を代表して「入学の言葉」があった。

(2) 第16回スポーツフェスティバル

第16回スポーツフェスティバルは、市民体育館を会場に10月7日（金）に、クラスや学年を超えた新たな仲間づくりと健康づくりを目標としてカレッジ生全員により盛大に実施された。

種目は、ボール送り、スプーンレース、綱引き、ダンス、風船割り、玉入れ等があり、実行委員会を中心に手作り運動会となった。

(3) 文化祭

11月15日から11月19日にわたり、カレッジ生による文化祭を中央公民館大ホールを主な会場として実施した。昨年度に続き、卒業生にグループ活動発表（パネル展示・イベント）に参加してもらい、より多くの人と新たな交流と親睦を深めた。出品作品は、絵画・書道・手工芸・洋裁・和裁・盆栽と多岐の分野にわたり合計298点の出品があり、それぞれに万感の思いが込められた力作揃いであった。

最終日には舞台発表の部を開き、練習の成果を発表し、たのしい有意義なひとときを過ごした。

(4) 「佐倉市民カレッジ創立20年記念式典」（全学年共通）

平成24年1月12日に佐倉市民音楽ホールを会場として実施した。

第1部の式典では、千葉県教育委員会教育長から祝辞を、卒業生代表として佐倉市民カレッジ同窓会会長の島田昌彦さんから挨拶をいただいた。また、佐倉市民カレッジ総長の蕨和雄市長からは「卒業生の皆様が、市民カレッジで得た知識や経験を基に、様々な地域活動の場においてご活躍いただいております。

ますことは、総長として大変嬉しく思うとともに、卒業後も市政に深くご理解・ご協力をいただいております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。」との式辞をいただいた。また、20年にわたって佐倉市民カレッジの発展に貢献された方10名の感謝状贈呈が行われた。

第2部では、聖徳大学准教授の齊藤ゆかさんと佐倉市民カレッジ総長である蕨和雄市長とで「明日に向かって、まちづくり～明るく心豊かな地域社会をめざして～」をテーマに記念対談が行われた。

第3部では「今、自然と人のかかわりの歴史を考えるー環境の日本史ー」をテーマに、国立歴史民族博物館館長平川南さんによる記念講演が行われた。

(5) 「まちづくり実践報告会」(2年)

2学年は、私たちの考えるまちづくりについて、行動のための具体策を話し合い「まちづくり実践報告会」を実施した。この学習は、カレッジ生個々の市政に対する学習の取り組みを重視する形を取り、市政の学習をもとに自分ならこのようなビジョンを持つと個々に考えをまとめ、その後に課題意識を同じくする仲間グループ(課題部門別)を形成し、各グループ別に調査研究、討議を重ねた内容を実践し、それらの実践活動を、平成24年1月24日に市長を迎えて、1・2年合同の学習形態で、代表者による発表をした。

その発表内容は、「臼井興胤物語と佐倉藩幕末事情」「ユーカーリが丘南公園の樹木名板設置と環境整備」「ふれあいサイクルロードの美化活動」「日本の伝統的食文化『そば打ち』を広める」「踊って広げる地域の輪」「保存樹を守る活動」「心を癒す花いっぱい活動」の7点であった。

(6) 修了式・卒業式

平成24年2月18日に修了式、続いて卒業式を行った。

皆勤者10名を含む89名が、今後の活躍を胸に秘めながら卒業証書を手にした。

蕨総長は「昨年3月11日は東日本大震災という未曾有の大災害があり、佐倉市でも大きな被害がありました。人と人との絆の大切さを思い知らされました。皆様にとっても生活を見直す大きな契機ともなっただと思います。そのような中で皆様がこれまで学んできた、地域で活動するための知識と技術はますます重要性を増しているものと考えます。」との言葉を述べられた。

卒業生を代表して歴史コース犬塚明子さんが卒業の決意を述べ、通い続けた学舎を巣立った。

8. 佐倉市民カレッジ生の課外活動

カレッジ生は自主的にサークルを結成し、学習日以外にも積極的に活動している。これらのサークルに対し、公民館では活動の場を提供している。

日頃の学習とは異なり、趣味を深める活動や地域社会へ貢献していくための活動などそれぞれに様々な活動を行っている。中でも、園芸サークルは、異学年や卒業生と交流を深めつつ、公民館周辺の花壇の管理、環境美化活動をボランティアで行っており、四季折々の花壇や玄関スロープの花々が来館者の目を楽しませている。

5. 広報・展示事業

広報事業

公民館だより

- ねらい 中央公民館主催事業や中央公民館の使用申込みについてなどを紹介する。
- 発行回数 年1回
- 発行部数 500部
- 配布方法 各公民館、図書館、コミュニティセンター
- 内容 佐倉市民カレッジ であい課程・専攻課程の概要、文化祭、スポーツフェスティバル
まちづくり実践報告会、サークル活動 他
- 展望 佐倉市の広報紙と連携をとりながら、幅広い紙面づくりに心がけたい。

なかま

- ねらい 市民の手による、市民の「心の交流の場」づくりをめざします。
- 発行 年12回（毎月1回）
- 発行部数 毎月1,500部（年間1,500部×12ヵ月＝18,000部）
- 配布方法 市内公民館・図書館・保険福祉センター・佐倉一里塚・市内各駅等で配布。
また、編集委員による配布や市民ハイキング参加者への配付も行っています。
- 編集方法 佐倉市民カレッジ生とその卒業生からなるボランティア編集委員19名が編集会議を
毎月2回開催しています。

編集会議では、原稿の内容上の個々の事項についての検討とその処置、校正・割付けなどの編集作業と、年間計画やこれからの方向性などについて話し合いを行います。

また平成17年度からは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生がボランティアで版下作成を行っています。

- 内容 A4版4ページの体裁で、1面は市長及び編集委員の原稿、2・3面は市内在住の市民の方から頂いた投稿文を掲載しています。4面は中央公民館の主催事業や公民館からのお知らせ、コラム的なさくら道、編集委員によるあとがきを掲載しています。

平成20年6月には編集会議が、(社)日本善行会から特別表彰善行賞を受賞しました。

「なかま」は毎月発行されておりますが、平成22年2月には創刊から数えて400号となりました。

なお、平成23年度の1面から3面の題と投稿者は次のとおりです。

「なかま」掲載記事

発行年月	号数	主 な 内 容
平成23年 4月	414号	歴史の木戸の一步手前（編集委員 猪瀬信彦） 楽しく生きる80歳男盛り（永見 一） もっともっと子供自治を！（黒木裕子） 影ふみ（徳武 寛） 新しい農法をみて（辰巳洋司）
5月	415号	さらば青春（編集委員 巴 安治） ごめんねだけど有難う（菊池一男） 「江戸時代」を見直す（木村克俊） 物ダイエット（灰谷由利子） 奥の細道紀行のお礼参り（嶋田勝己）
6月	416号	私の心の故郷（編集委員 服部一宏） 住み続けたい町に（筒井真人） 地域で支える子育て（小林邦子） 読書の楽しみ（村井彰夫） おひとりさまの人生（茂利 晃）

7月	417号	夏は来ぬ(編集委員 松山洋子) 私の認知症予防(鈴木伶子) 「佐倉新町江戸勝り」今昔(宮田政弘) 根郷地区を歩こう(斎藤 雄) 大人のごっこ遊び(渡邊麻美)
8月	418号	国立佐倉療養所(編集委員 金井義彰) メジロと家賃(渡邊和男) 路傍のコクリコ(村田長保) 紋白蝶と網目キャベツ(川口恭一) 窓辺の恋人と会える喜び(吉田順一)
9月	419号	外川漁港(編集委員 横山詔正) 多言語学習の楽しさ(林 和義) 挨拶はいろはの「い」(廣吉正毅) へソ山とケツ山(宮本定雄) 感じるままに思いつくままに(柴田伸一)
10月	420号	孫との奮闘記(編集委員 六角 学) 蘇った梵天塚(宮武孝吉) 月見草(山景初子) 西興陪村(奈良雅広) 故郷出雲と佐倉について(冨田 栄)
11月	421号	インディアナ(編集委員 長谷川嘉代) 私のライフワーク(村田高晴) 朋あり!遠方でゲットせよ(若宮和夫) 随想「つぶやき」(藤田 恭) 指運で碁を打つ(安田洋晴)
12月	422号	学ぶ・習う・楽しむ(編集委員 森山義信) 地方で頑張るモノ作り屋さん(辰巳洋司) 「水彩仲間 18 作品展」をたずねて(宮岡 講治) 気に入った傘(篠原恵子) 秀次と瑞泉寺(小池由美)
平成23年 1月	423号	新春に寄せて(佐倉市長 蔵和雄) 96歳の元気を支える便利棒(鈴木美子) あるNPO法人代表の歩いた道(大川義郎) 耳の力を考える(吉井 弘) 自 慢 (稲村 孝)
2月	424号	被災地の出会い(編集委員 篠塚勝夫) 箱根駅伝…その思い(西山 章) 児戯「花一匁」考(横山勇典) ふきのとう(清澤瞳子) 六十年ぶりに(林 久子)
3月	425号	テレビ体操・ソフトヨガとの出会い(編集委員 柴山つきみ) 徳川家康公・堀田正倫公の隠れた系?(田辺幹憲) 熟女・熟男(植野信允) 私の生きがい(内海正子) 夢は見るもの、叶えるもの(北野和子)

6. 団体育成事業

調理室利用グループによる調理室点検

- 開設趣旨 調理室を定期利用しているグループに対し、お互いの交流の機会を作ると共に、調理室の効率的な活用と適正な運営を図る。
- 開催期日 ①平成23年6月27日(月) 午前10時～11時30分
②平成23年12月12日(月) 午前10時～11時30分
- 対象 調理室を定期利用しているグループ
①17団体 ②17団体
- 内容 1) 調理室の清掃
2) 公民館備品の整理・点検
3) グループ備品の整理
4) グループ間の懇談
5) 公民館への要望

佐倉地区子ども会育成会連絡協議会

佐倉地区子連は、佐倉地区内の子ども会及び子ども会を取り巻く諸関係機関団体との連絡・調整を図り、各单位子ども会の健全な発展に寄与することを目的として結成されました。会の運営は、役員が中心となっていて行い、総会・役員会・各事業などを実施しています。中央公民館では、事務局としての役割、子ども会安全会等の申込みの受付、佐倉市子ども会育成連盟との連絡、備品の貸与等を行っています。子どもの成長にとって、地域における子ども会の役割は、重要性はと思われるので、これからも活動を支援していきたい。

〈単位子ども会数及び会員数〉

- 単位子ども会 7団体
- 会 員 数 357名（昨年より45名減少）
 - 幼 児 31名（昨年より 5名減少）
 - 小学生 280名（昨年より24名減少）
 - 育成者 46名（昨年より16名減少）

〈主な行事〉

実施月日	事業	内 容	会 場
平成 23. 4. 27 (水)	平成 23 年度総会	平成 22 年度事業報告 平成 22 年度決算報告 平成 23 年度事業計画 平成 23 年度予算案	中央公民館 学習室 2
平成 23. 5. 7(土)	佐倉市子ども会育成連盟 定期総会	平成 23 年度総会	臼井公民館 集会室
平成 23. 6. 1 (水)	印旛郡市子ども会育成者 講習会	育成者講習会	印西市印旛公民館
平成 23. 6. 2 (木)	佐倉市子ども会育成連盟 育成者講習会	ゲーム講習会 ～作って遊ぶファンタジー～	青少年体育館
平成 23. 6. 25 (土)	印旛郡市子ども会実践 体験研修会	野外でごはんを炊いてみよ う・てぬぐいで応急手当	印西市立印旛公民館
平成 23. 9. 14 (水)	第 1 回役員会	佐倉こどもかるた大会 中央交流フェスティバル について	中央公民館 会議室
平成 23. 10. 1 (土)	佐倉市子ども会育成連盟 中央交流フェスティバル	遊びの王様にオレはなる	佐倉市民体育館
平成 23. 10. 6 (木)	佐倉市子ども会育成連盟 育成者講習会	クリスマス講習会	根郷公民館
平成 23. 11. 22 (火)	第 2 回役員会	佐倉こどもかるた大会につ いて	中央公民館 会議室
平成 23. 11. 26 (土)	第 2 回佐倉こどもかるた 大会	佐倉こどもかるた大会	中央公民館 大ホール
平成 24. 3. 6 (火)	第 3 回役員会	平成 23 年度活動報告及び 平成 24 年度事業計画	中央公民館 会議室
平成 24. 3. 26 (土)	佐倉市子ども会育成連盟 第 2 回役員会	平成 23 年度活動報告及び 平成 24 年度に向けて	市役所社会福祉センタ ー 地下会議室